

島元

幕別町

全日本2冠

アームレスリングの第39回JAWA全日本選手権大会（11月13日・東京都墨田区総合体育館、日本アームレスリング連盟主催）で、島元雄平（28）＝幕別町、会社員Ⅱが70kg級のレフトハンド（左）とライトハンド（右）を制し、初出場での2冠を達成した。芽室町のP・B・Aジム（伊藤憲治代表）での実戦練習で競技に必要な各種の技を磨き上げ、十勝勢の一般年代で初の全国制覇の快挙を遂げた。



全日本選手権初出場
で左右2冠の快挙を
達成、連覇を目指し
て精進を誓う島元雄
平（芽室町のP・B
・Aジムで）

左右で圧勝「もっと頑張りたい」

島元は9月の道選手権70kg級右と78kg級左の2冠を遂げて全日本に挑んだ。全国の強豪が大勢参加したが「いつもの大会と変わらない。初めてだからむしろプレッシャーはなかった」と平常心で臨んだ。まず30人エントリーの左では、つり手（相手の指先をつり上げてから手首を返して倒す技）でトーナメント準決勝までの4試合を「淡々と瞬殺した」。決勝もパワーのある相手（埼玉県の金澤明典）と互いにファウル1回ずつの後の3回目で、約2秒半で仕留めた。

42人エントリーの右は「左よりもたついた」と言うが、決勝を含む6試合を数秒〜1分以内で完勝した。「時間がかかる試合も、P・B・Aジムでの実戦でみんなとやっていた練習通り。体重のある選手と（普段から）戦っていたことが良かった」と振り返る。

島元は札内南小、札内中時代は野球に打ち込んだ。19歳の時、父の知人で十勝のアームレスリング競技のパイオニア高野賢治さん（1992年道選手権72kg級右優勝など28回連続出場、今年も70kg級左優勝）の帯広市の自宅のジム、そしてP・B・Aジムでも鍛え始めた。1年目の2013年の道選手権60kg級左で早くも2位。15年の70kg級左で初優勝して以来、17年の同左右2冠など通算7回の道王者に輝いた。

十勝勢はジュニアでの全国優勝は過去にあったが、一般では初めて。高野さんと共に十勝での競技普及に長年取り組んできたP・B・Aジムの伊藤代表（08年の道選手権90kg超級右優勝者）は「島元君は技の全てでレベルが高い。初の全国でもいいところまで行くだろうとは思っていたが、まさか左右で優勝とは」と喜ぶ。

島元は「2冠はうれしいが、まだまだ（自分は）穴だらけ。追ってくる人がいるので、もっと頑張っていきたい」と精進を誓う。自宅とジムでの毎日の筋トレと、週1回のP・B・Aジムでの実戦練習で鍛える。練習では体重100kg超の伊藤代表にも「勝ちたい」とさらに技を磨き、「1次（来年）も全国で2つを」と左右連覇を目指す。（横田光俊）